

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
1 暮らしを支える 上下水道	(1) 安心できる 水の確保 (P45)	① 水源域の 適切な保全	森林整備(整備面積32.8ha/4年)を実施したほか、水資源保全地域における土地利用状況を確認するなど、水源域の保全に向けた取り組みを進めました。	B	赤川高区浄水場のDBOについて、委託管理業務に「水源林保全」が含まれることを憂慮しています。水源涵養林は、函館の先人達が残した市民共有の貴重な財産であり、将来の函館市民へ引き渡すべき資産です。短期的な経済効率を優先するあまり外注に出してしまうのはいかがなものでしょうか。	赤川高区浄水場のDBO事業に水源林保全を含めたことにつきましては、DBO事業者が浄水処理のみならず、水源涵養を含む水道システム全体を理解することが将来にわたる水の安全安定供給につながるものと考えております。水源林保全業務は、水源の環境保全を主目的に、企業局が策定しました森林経営計画に基づき、企業局の管理、監督のもとでDBO事業者が整備・保育を実施しております。今後におきましても、市民共有の貴重な財産である水源の保全に努めてまいります。
	(3) 安全な水の 供給 (P46)	① 水質管理体制 の充実	水質検査機器の更新や、国や道が実施する外部精度管理への参加など、検査精度の向上に向けた取り組みを進めました。	B	船乗りから、函館の水は赤道を越えても腐らないと賞賛された水質を維持していただきたい。	企業局では、水源から給水栓まで定期的な水質検査を実施しております。今後におきましても、水質検査計画に基づき、適切な水質管理を行い、安全で良質な水の供給に努めてまいります。
	(4) 水道施設 機能の保全 (P47)	① 老朽施設の 計画的な更新 と施設規模の 適正化	老朽配水管を更新(φ100～350mm L=13,200m/4年)したほか、将来の水需要を見据え浄水能力を見直すなど、老朽施設の更新と施設規模の適正化を進めました。  赤川高区浄水場ろ過池棟建設工事が完了しました。	B	赤川高区浄水場ろ過池棟建設工事について説明を受けましたが、こういう事例の時は委員会の中で視察をするべきだと思う。現場を見ることによる理解や興味の深さが違ってくる。  赤川低区浄水場の緩速ろ過施設は「現役の産業遺産」とも言うべき優れた施設です。適切な維持管理を施し街の将来の社会基盤の一つとしてください。  コロナ禍の中にあっても民活手法であるDBO方式により赤川高区浄水場プラント設備更新整備等事業を実施されたことは、高く評価できるものと思います。これをモデルとして今後も是非、民間事業者の活用を想定した事業構築を検討していただきたいと思っております。	経営懇話会委員の上下水道施設見学は、委員改選毎に実施しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見送っているところです。 また、現場視察は委員の皆様が企業局の事業をより深く理解していただくために必要なことだと認識しておりますので、新型コロナウイルス感染症の感染状況を勘案したうえで実施したいと考えております。  赤川低区浄水場の緩速ろ過施設は、薬品や電力使用量が少なく省エネルギーな施設であり、平成24年度から4力年かけて更新を行い耐震化を図っております。 今後におきましても、適切な維持管理を行いながら、安全で良質な水の供給に努めてまいります。  PFI手法導入に対しましては、函館市PPP/PFI活用ガイドラインに基づき導入に向けた検討を行い、実施の適否について決定することになります。 今後におきましても、公営による運営のもと民間活力の活用を図りながら、効率的な事業運営に努めてまいります。
	(7) 下水道 施設機能の 保全 (P51)	① 老朽施設の 計画的な更新 と施設規模の 適正化	老朽管渠を更新(φ300～1500mm L=12,564m/4年)したほか、南部下水終末処理場の設備を適正規模で更新するなど、老朽施設の更新と施設規模の適正化を進めました。	B	ライフラインの構築としては30年、50年後等の未来を現状と同様に考えた施設更新を考えてほしいと願うところ。	下水道ストックマネジメント計画により、長期的な視点で下水道施設全体の老朽化状況を把握し、優先順位をつけたうえで、事業費の平準化を図りながら施設の更新を進めてまいります。

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
2 災害に強い 上下水道	(3) 災害対応力の 向上 (P57)	① 災害対策 マニュアルと 訓練の 充実化	上下水道事業のBCPに基づく訓練を実施するとともに、BCPや災害対策マニュアルの内容を見直し充実化を図りました。	B	緊急時の対応には、日常業務では一見無駄と思える準備が力を発揮します。緊急対応の余力を残した事業計画の推進をお願いします。営利目的の民間企業ではできないことをする、そのための公営企業体です。	災害対応力の向上につきましては、今後も様々なリスクを想定した訓練に取り組み、対応能力の更なる向上に努めてまいります。
		② 公民連携の 推進	民間事業者との合同訓練の実施や大雨時における浸水防止体制の強化を図ったほか、民間事業者と連携して給水拠点を整備するなど、公民連携の取り組みを進めました。	B	災害時の対応力向上のために、民間事業者との合同訓練等公民連携が推進されていることは、一市民としてとても心強く思います。他地域との連携と合わせ、定期的に協議の場を持つなど一層推進していただきたいと思っております。	民間事業者との合同訓練につきましては、引き続き計画的に取り組むとともに、北海道や日本水道協会が主催する災害時相互応援訓練等を通じ、各自治体との協議や連携を深め、被災時における相互連絡や応援体制の確立を推進してまいります。
3 信頼される 事業運営	(1) 健全な 事業経営の 推進 (P58)	⑤ 人材育成の 推進	各種マニュアルの整備や職員研修の実施、外部団体主催研修への参加などにより、職員の能力開発に努めたほか、全国規模の会議において研究発表を行うなど、人材育成を推進しました。	B	経費節減はおおいに結構ですが、企業局内部の技術水準が維持・継承されるよう配慮をお願いします。	長年の経験で培われてきた技術を、着実に次の世代の職員に継承するため、職場研修の実施や技術マニュアルの整備などに取り組んでいるほか、昨年度はすべての所属において、それぞれ継承が必要な知識・技術について意見交換を行いました。今後におきましても、こうした取り組みを継続的に実施するほか、他事業体と合同で研修を実施するなど多面的に取り組むを進めることで、技術の維持・継承を図ってまいります。
	(2) 効率的な 組織づくり (P59)	② 公民連携の 推進による 効率的な 事業の運営	南部下水終末処理場や水道料金等徴収の業務委託内容を拡大したほか、運転管理業務に係る民間事業者に対する技術指導や合同訓練を実施するなど、公民連携の推進による効率的な事業運営に向けた取り組みを進めました。	B	管工事業従事者の高齢化や人手不足が顕著であり、将来の上下水道事業を担う人材育成や民間での技術継承の意味で、例えば管工事組合と共同で高専や高校生を対象に体験型講習会開催を検討してみたいと思っております。	将来の上下水道事業を担う人材育成や民間事業者での技術継承につきましては、これまでも高専生のインターンシップの受け入れを実施しているほか、令和元年には函館で開催された日本水道協会全国会議へ高専や工業高校の生徒を招待し、最新の水道に関する技術に触れていただきました。 また、今後、公民合同で実地訓練するための施設を資材置場に設置する予定であり、引き続き公民一体となった技術継承に努めてまいります。
	(3) 透明性の 高い事業運営 (P60)	① 情報提供の 充実	企業局だよりの発行やラジオ、市電広告による情報提供を実施したほか、マンホールカードの配付(20,000枚/4年)や水道創設130周年記念事業を実施するなど、情報提供の充実化を図りました。	B	可能であれば、小学生だけではなく大人でも中・高・大学生でも主婦でも参加できる上下水道事業の視察を実施してほしい。興味のある人は多いと思う。今回の合流式下水道改善事業についても委員会での視察があった方が理解が深まっていいと感じた。	一般市民を対象とした上下水道施設見学会は、平成27年まで毎年実施しておりましたが、年々参加者が減少してきたことから、平成28年より小学生を対象とし実施しているところであります。 団体や個人で施設見学を希望する方に対しては個別に対応しており、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で休止しておりますが、高校生や町会の会員、親子連れなど、3年間で810名の方が見学に訪れています。 なお、経営懇話会委員の現場視察は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を勘案したうえで実施したいと考えております。

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
4 環境対策の推進	環境負荷の (1) 低減 (P61)	① 省エネルギー 対策の推進	上下水道施設において施設照明のLED化や、省エネルギー型設備の導入によりCO2排出量を削減しました。 (削減効果373t/4年)	B	外海に面した函館市は排水による汚染が顕在化しない立地です。当面苦情を言うのはお魚だけですが、ツケは人間に回ってきます。環境負荷の低減は緊張感を持って対処していただきたいところです。	南部下水終末処理場からの放流水等の水質につきましては、定期的に水質検査を実施しており、法令に定められた基準を遵守しております。 今後におきましても、適正な維持管理をしながら、公共用水域の水質保全に努めてまいります。
上下水道事業経営ビジョン全般					<p>今後、大幅な人口減少が予想される中、この事象に対する対策項目を具体化する作業が進んでいることと思うが、その作業の進捗状況について周知して欲しい。</p> <p>「第2期函館市活性化総合戦略」および「函館市人口ビジョン(令和元年度改訂版)」においては、2060年に、函館市の人口は11万7千人となるとしており、概ね現在の人口の半分となるため、相応の対処が必要だとしております。今後の経営ビジョンの策定の基調は、ユーザー数の激減を前提とした(たとえば、交流人口数が堅調に推移したとしても)上で考えていく必要があると思うからです。</p> <p>議論のたたき台になる、項目を洗い出す必要があると思うからです。</p>	<p>人口減少に伴う水需要の減少により、料金収入の減少や既存施設規模が過大となることを想定しているなかで、函館市人口ビジョンを基に将来の給水人口と給水量の推計結果から、財政計画における料金収入予測を行っているとともに、老朽施設の更新時には規模の適正化を図っております。</p> <p>今後におきましても、市民の皆様に安全で安心に利用していただけるようなサービスを、将来にわたって安定的・継続的に提供していくことを考え事業運営に努めてまいります。</p>

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

— : 評価なし